

## 「心のバリアフリー教育」×アイトムポッシブル

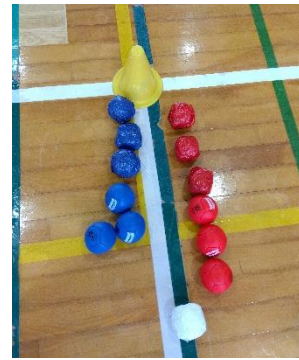
#他学年との交流#手作りのボッチャボールを活用#パラスポーツ体験だけで終わらない深い学び  
#これからの人生において自分だったらどうするのかを考える

学校名	東金市立丘山小学校			
授業担当者	第3学年:上林 悠 第6学年:木川 尚敏			
授業時間	指導計画参照			
実施対象	3年生(1クラス 16名)、6年生(1クラス 6名)			
授業のねらい	千葉県教育委員会の方針である「心のバリアフリー教育」の一環として、共生社会の形成について考える導入とする。			
使用教材	東京2020ダイジェスト「Tokyo 2020's Most Emotional Moments」の映像 2-1:パラリンピックスポーツについて学ぼう!(座学) 1-3:公平について考えてみよう!(座学) 2-4:ボッチャをやってみよう!(実技)			
指導計画	時	主な学習活動	学習目標	場所・時間
	1	○パラスポーツについて調べる。 ※「Tokyo 2020's Most Emotional Moments」の動画視聴。	・パラスポーツをとおして「共生社会」について知る。	9月
	2	○「あすチャレ!スクール」のパラスポーツ体験型授業に参加する。	・パラアスリートによる,車いすバスケットボールを知り,理解を深める。	10月
	3	○パラスポーツのボッチャについて調べる。 ※パラリンピックスポーツについて学ぼう!  (使用ユニット2-1)	・パラスポーツのボッチャについて知り,ルールを理解する。(3年生) ・ボッチャを楽しみ,競技の魅力に触れることで,自分の言葉でボッチャの良さを人に伝えられるようにする。(6年生)	2/1(水) 5校時 体育館
	4 時	○チームに分かれてゲームをする。 ※ボッチャをやってみよう!  (使用ユニット2-4)	・ボッチャをとおして交流する。(3年生と6年生一緒に授業を実施)	2/2(木) 3校時 体育館
	5	○振り返りをする。 ※公平について考えてみよう!  (使用ユニット1-3)	・振り返りをし,「共生社会」についての気づきを深める。(3年生と6年生一緒に授業を実施)	2/3(金) 3校時 3年教室
生徒のコメント	(ボッチャの試合後のコメント) ・友だちと話して楽しんで仲をより深められるところがいいと思いました(3年生)			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生と6年生はあまり関わりが少ない学年だったけどみんなと仲良くなれた。ポッチャは障がいがある人達がやるスポーツと決めつけていたけど今回の授業をして障害がある人健常者の人、関係なく楽しめる(6年生)</li> <li>(3年生と6年生の振り返り授業でのコメント)</li> <li>・もしよたさんのような子がクラスにいたら「その子の気持ちになって考える」「自分だったらどうしたらよいか考える」「その子に聞いてみる」この3つのことを大切にして話し合いをしたいです。障がい者、けんじょう者みんなが公平になるようにしっかり考えて行動することが大切だと思いました。(6年生)</li> <li>・しょうがいがある人、ない人かんけいなくその子の気持ちになってあげることが大切だと思います。(3年生)</li> <li>・みんなで話し合いをして、チームのみんなの意見を聞いたり、ほかのチームの考えを聞いて自分たちじゃなくて相手に聞いたりして相手の気持ちになるということが大切だと思いました(3年生)</li> </ul>
先生コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達が夢中になって学習にポッチャに取り組んだり話し合ったりしている姿をみて、ちょっとした工夫で誰もが楽しんだり過ごしやすいくなったりするということを実感することができた。</li> <li>・3年生と6年生と活動したことにより、学年が違っていても同じように楽しんだり話し合ったりすることができることを実感できた。そして、普段かかわりの少ない学年であるにもかかわらず、交流を深められた。</li> <li>・ポッチャでは既製品のボールと手作りのボールをどう使ったらみんなが楽しめるのか前時に話し合った。(15分ほどかけて)2試合することや、みんながどちらのボールも使えるようにしたほうが良いという意見が出て、どちらのコートにも半分ずつ入れることになった。</li> <li>・IPの内容が充実しているため、選択して取り入れられた。</li> <li>○児童の発達段階に合わせた内容の選択</li> <li>○IPの指導の流れをもとにした、発問や資料提示の順番の入れ替え</li> <li>・ポッチャの体験→公平の授業(座学)の組み合わせにより、楽しかっただけでなく、学習を深めることにつながった。</li> <li>・用具(ランプ)の使い方を考えさせたことで、用具の工夫をすれば手足を動かすことが難しい人でも楽しめるスポーツであることを深く理解することができた。</li> <li>・パラスポーツを体験させて終わりにするのではなく、この体験から、共生社会や公平について考えさせ、児童がこれから先の人生において自分だったらどうしていくのかを深く考えることができた。</li> </ul>
その他	<p>令和4年度千葉県心のバリアフリー教育グッドプラクティス顕彰優秀賞を受賞 心のバリアフリー教育の取組において、他の学校にとって参考となり、優れた成果があったと認められる学校に送られます。</p> <p><a href="https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/seisaku/kokoro-barrier-free/reiwa4-good.html">https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/seisaku/kokoro-barrier-free/reiwa4-good.html</a></p>



3年生と6年生が協力して審判をする



手作りのボールと既製品のボールを各グループに均等に配布。



ポッチャの時と同じグループで1-3公平の授業を実施。各グループでディスカッションをして出た意見を発表。

